

## 九州大学大学文書館の紹介

折田 悦郎  
九州大学大学文書館

### 1. はじめに

九州大学大学文書館は、2005（平成17）年4月、従来の九州大学大学史料室をもとに設置された。大学文書館に改組されてからまだ3年しか経っていないが、大学史料室自体は1992（平成4）年12月に開設されたので、九州大学での大学アーカイブの活動は15年を越えることになる。本稿では大学史料室時代の活動も含めて、大学文書館（以下、当館）の紹介を行ってみたい。

当館の目的は、「九州大学に関わる法人文書等の資料を収集、整理、保存し、大学及び大学の歴史に関する調査研究を行うとともに、その資料を学生、職員その他一般の利用に供すること」（九州大学大学文書館規則、以下「規則」）にある。その組織は後掲「組織」（データシート）のようなものであり、法人文書資料室と大学史資料室の2室からなる。各資料室には室長が置かれ、法人文書資料室長には事務局総務課長（兼任）が、大学史資料室長には大学文書館専任教員が就いている。また、当館には兼任教職員制度があるが（現在7名）、これは大学史料室時代の兼任教職員制度に事務職員の兼任を加えたもので、事務局の総務課長、法令審議室長、総務第二係長が兼任の職員となっている。法人文書資料室長の総務課長兼任とともに、事務局、特に総務課との連携強化を意図した措置である。当館のいわゆる親委員会は「大学文書館委員会」であり、「(1)資料の収集、整理及び保存に関すること。(2)資料の調査・研究に関すること。(3)資料の活用に関すること。(4)その他大学資料に関すること」（「規則」）、や、予算案、人事案件についての審議を行う。館の人員は、館長1名（理事・副学長の兼任）、副館長1名（兼

任教員）、専任教員1名、事務職員1名、事務補佐員2名。ただし少人数のため、上記のように兼任教職員制度を採用して、共同研究や日常業務に当たっている。

### 2. 大学文書館の活動

#### 2.1 資料の収集・整理・保存・活用

当館が最も力を入れているのが、大学関係資料の収集・整理・保存・活用である。資料は事務文書（法人文書）が中心であるが、大学関係者の私文書や印刷物、モノ・写真・映像資料等の収集も行っている。これまで、事務局や各一部局事務部、旧組織（旧制福岡高等学校、旧教養部、旧研究所等）の事務文書を受け入れたほか、新キャンパス（伊都地区）への移転にともない工学部関係の文書を受け入れた。個人資料は古くは明治初年のものから近年のものにまで及んでいる。また、組織の改組・改称によって、多数の看板（標札）や実験器具等のモノ資料の移管もある。それから当館では、大学史料室時代からいわゆるオーラルヒストリーを実施し（元副学長、九州大学年史編纂担当者、「学徒出陣」経験者）、2003年からは移転の進むキャンパスの現況を映像・画像で記録する作業（2007年度は『九州大学「キャンパス移転」記録プロジェクト』）も行っている。文書資料とは違った形での資料収集ということになるが、オーラルヒストリーや現況記録は、当館の活動の一特徴といえるかもしれない。

#### 2.2 調査・研究活動

調査・研究活動では、九州大学を中心とした

大学史研究と、大学文書館論に関する研究を行っている。学内諸経費、科学研究費補助金、自治体からの委託により、『九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査』、『九州大学における学徒出陣・学徒動員』等、これまで12の共同研究を組織し、他大学との共同研究にも参加した（代表：西山伸京都大学大学文書館助教授、『大学所蔵の歴史的公文書の評価・選別についての基礎的研究』、科研基盤研究（B）、2005～07年度）。刊行物は1993（平成5）年3月に『九州大学大学史料叢書』（年1回、現在第16輯）と「九州大学大学史料室ニュース」（現「大学文書館ニュース」、年2回、現在第31号）を創刊し、現在ではこのほかに所蔵する文書や写真の目録、報告書等（計26冊）を刊行している。

### 2.3 教育活動

教育活動については、いわゆる「自校史」教育を積極的に展開してきた。1997年度から始めた全学教育科目「九州大学の歴史」は国立大学では最初の試みであり、2002年には教科書『大学とはなにか 九州大学に学ぶ人々へ』を出版した。現在はこれらの活動を踏まえて「大学とはなにか ともに考える」を開講、「新キャンパスを科学する」の授業（分担）にも協力している。



書庫

### 2.4 その他の活動

その他の活動では、事務局、マスコミ、研

究者、その他に対する情報提供を行っている。最近では大学院生等の論文作成のための利用、市民のキャンパス見学、同窓会・「出前講義」等における九州大学史に関する講演依頼が増えており、これらに対しては主に専任教員が対応している。なお、大学文書館の場合、展示活動は場所（展示会場）の関係から、積極的には行ってこなかった。しかし、2005年3月の「旧制福岡高等学校展」を手始めに、以後は新キャンパス開校式典や毎年のホームカミングデーで写真展を開催し、DVD「九州大学の歩み 創設から伊都キャンパス誕生まで」も制作した。

### 3. 今後の課題

当館は昨年10月に従来の建物から本部事務局前の旧工学部本館1階正面に学内移転した。施設面積も629㎡となったが、当然ながら多くの課題も抱えている。最後にその二、三を記しておけば、まず資料収集面における大きな問題がある。当館への文書移管は「文書管理者は、（中略）法人文書の移管又は廃棄の区分にあたっては、九州大学大学文書館長と協議する」（九州大学法人文書管理規程）というもので、保存期間の満了した文書は「大学文書館に移管するものとする」というような義務規定にはなっていない。次に、今の問題とも関連するが、資料群によって利用のあり方が異なるなど、公開のルールが確定されているとは言い難い状況にある。また、いわゆる「電子資料」についての収集・保存システムの整備や、個人情報の取り扱いについての検討も今後の課題である。

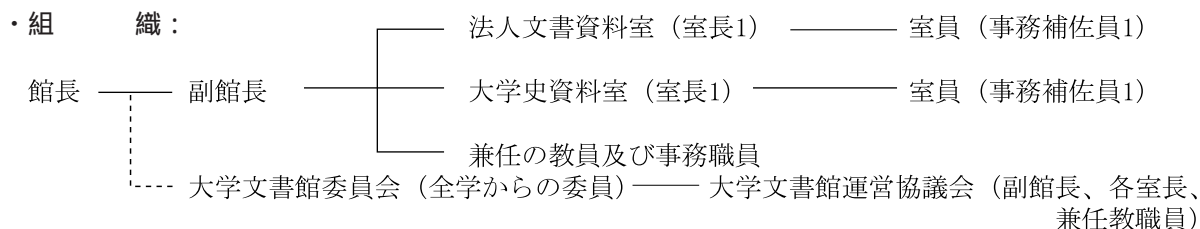
当館は他の国立大学文書館同様、いわゆる「情報公開」と「法人化」を追い風に活動してきた。しかし、日常の業務はキャンパス移転という事業の中では、それに強く規定されたものにならざるを得ないのも事実である。現在は、この点を十分に認識しながら大学文書館活動を続けて行きたいと考えている。

（2008年6月30日）

データシート

平成20年6月30日現在

- ・機関名：九州大学大学文書館
- ・所在地：〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
- ・電話：092-642-2292 FAX: 092-642-7646
- ・ホームページ：<http://www.arc.kyushu-u.ac.jp/>
- ・交通：地下鉄「箱崎九大前駅」で下車、徒歩5分 / JR 鹿児島本線「箱崎駅」で下車、徒歩10分
- ・開館年月日：平成17年4月1日
- ・設置根拠：九州大学学則、九州大学大学文書館規則



- ・建物：
  - 敷地面積 629㎡
  - 建物延面積 (占有面積) 629㎡ (事務棟66㎡、書庫等 449㎡、その他114㎡)、書架延長2.6Km
  - 構造 鉄筋コンクリート造3階建の一部を使用 (事務室地上1階、書庫等地上1階)

- ・収蔵資料の概要：
  - 移管法人文書 約20,000冊
  - 刊行物・図書 約 8,000冊
  - その他 (個人資料・スクラップ・写真帳・ビデオ・CD・DVD等) 約7,000点

- ・開館日数 / 閲覧室利用者 (平成19年度) : 243日 / 337人 (含写真展来場者)
- ・休館日：土曜日、日曜日及び国民の休日、年末年始 (12月28日～1月4日)

- ・主な事業 (平成19年度) :
  - 資料の収集・整理・保存・活用
    - 本部事務局・各部局事務部の法人文書、モノ資料等の受け入れ
    - 大学関係団体・個人文書の受け入れ
    - 「学徒出陣に関する座談会」開催
    - 『九州大学「キャンパス移転」記録プロジェクト』による写真、映像資料の収集

- 調査・研究活動
  - 『九州大学における学徒出陣・学徒動員』(科研基盤研究(C))の実施
  - 『九州大学大学史料叢書』第16輯、「九州大学大学文書館ニュース」第30号、第31号の刊行

- 教育活動
  - 「自校史」教育の実施 (総合科目「大学とはなにか ともに考える」)

- その他の活動
  - 「九州大学の歩み写真展」の開催
  - 新聞社等への取材協力
  - 構内見学会等における案内・説明九州大学百年史編集室設置のための準備作業



当館の入る旧工学部本館。九大を代表する建物である (1930年竣工)。

折田 悦郎 (おりた えつろう) : 九州大学大学文書館教授。昭和60年5月より九州大学75年史編集室にて年史編纂を担当、平成4年12月より九州大学大学史料室、同17年4月より九州大学大学文書館に勤務 (大学史資料室長)。